こども・若者意見ぷらすワークショップ結果概要

テーマ「若者が利用しやすい図書館とは？」

1.　開催概要

〔開催日時〕令和8年8月5日（水曜日）午前 9 時30分から正午まで

〔場　　所〕夢咲くら館　1 階　ゆめさくらひろば

〔内　　容〕

（1）図書館の概要・現状について職員から説明

（2）夢咲くら館の見学

（3）グループごとに事前課題「図書館を利用したことがあるか、ないか、その理由は？」について意見共有。

（4）利用する理由・利用しない理由をグループ分けし、「どうしたら利用したくなるか」「さらに利用したくになるにはどうしたら良いか」を話し合う。

（4）各グループによる発表

2. 参加者の意見から見えたこと

若者が図書館を利用する理由としては、

・静かに勉強や自習ができる
・調べものができる
・涼しく快適に過ごせる
・時間制限がなく長く滞在できる
・小さいころから利用する習慣がある
・イベントや展示に興味がある

といった意見が多く見られた。

一方で、利用しない理由としては、

・場所が遠い、知らない
・部活動や仕事で時間がない
・開館時間が短い
・本に興味がない
・学校図書館で十分
・飲食や会話ができないイメージがある
・自習スペースが不足している
・電子書籍やインターネットで代替できる

といった意見が挙げられた。

3. 若者が求める図書館の特徴

意見を整理すると、以下の 5 つに集約された。

① 学習しやすい環境

・自習スペースの充実
・テスト期間中の席数確保
・コンセントの設置
・電子機器が利用できるスペース
・中高生向けスペース

② 滞在しやすい環境

・飲食スペース
・軽食の販売
・会話できる場所
・用途に応じたエリア分け

③ 若者向けの情報発信

・SNS（Instagram、TikTok、YouTube）での情報発信
・学校を通じた周知
・図書館の場所やサービスの PR

④ 本や情報との出会い

・YA コーナーの充実
・人気本の充実

・テーマ展示
・時事ニュースや話題の本の紹介
・自由研究やレポート作成支援

⑤ 利用のきっかけづくり

・学生向けイベント
・小さいころからの読書習慣づくり
・学校との連携
・おはなし会や読み聞かせ

4. 特に印象的だった意見

「図書館が嫌いなのではなく、知らない・行く理由がない」
「本よりもまず、自習や居場所として利用する」
「図書館の魅力が若者に届いていない」
「小さいころの利用経験が継続利用につながっている」
「利用しやすさは蔵書だけでなく、居心地や立ち寄りやすさも重要」

また、SNS による情報発信については、

若者がよく利用しているのは Instagram や TikTok である
一方で、興味のある情報しか表示されないため、図書館に関心がない人には届きにくい
という意見もあり、SNS だけでなく、学校や若者が日常的に利用する場所を通じた情報発信の重要性が確認された。

5. 今後の取組（予定）

今回のワークショップでは、図書館のサービスや魅力が十分知られていないことや、利用するきっかけづくりが必要であることが明らかとなった。

そのため、いただいた意見を踏まえ、PR の拡充・学校連携の強化・利便性向上に取り組んでいく。

（1）電子図書館の周知・利用促進
参加者からは、「電子図書館を知らなかった」「電子書籍であれば図書館に行かなくても利用できる」といった意見があった。
そのため、令和 8 年 9 月以降、市内中学校に電子図書館のポスター掲示を依頼し、電子図書館サービスの周知を図る。

（2）学校との連携による図書館利用のきっかけづくり
参加者からは、小さい頃から図書館を利用する習慣の大切さや、学校を通じた情報発信の重要性に

ついて意見があった。
そのため、令和８年９月以降、佐倉南図書館の展示スペースを活用し、学校の授業や図書委員会活動などで作成した本や読書に関する作品、活動成果等を展示する取組を実施する。

（3）若者と図書館をつなぐ情報発信・きっかけづくり
参加者からは、「図書館が嫌いなのではなく、利用するきっかけがない」「図書館のことをもっと知ることができれば利用したい」といった意見があった。
また、SNS については、興味のある情報しか表示されないため、図書館に関心のない若者には届きにくいという意見も聞かれた。
そのため、図書館内だけでなく、学校や若者が集まる施設などと連携し、若者の関心が高いテーマに関連した本や電子図書館サービスを紹介する取組を進める。

〔総括〕

若者が求めているのは、単に「本を読む場所」ではなく、学び・調べもの・自習・交流・居場所が一体となった利用しやすい空間であることが分かった。
また、施設整備以上に、図書館の存在やサービスを知ってもらうための PR や学校との連携が重要であることも確認できた。
今回のワークショップでは、「図書館が嫌いなのではなく、利用するきっかけがない」という意見が特に印象的であった。今後は、若者が図書館と接する機会を増やし、本や情報と出会うきっかけづくりに取り組むことで、若い世代にとってより身近で利用しやすい図書館を目指していく。